

【ねがいましては】

第99号

平成9年10月23日

共和珠算学習塾

「成長」

先日、当教室に通われていた生徒のお母さまよりお電話をいただきました。内容は高校3年の長女のことでした。彼女は小学校当時、珠算科へ在籍。そして中学になり学習科へ移りがんばっていました。しかし在学中、転居のためやむなくやめられたのですが、その後、公立全日制の高校へと進学しました。そして高3の秋、彼女はその高校を退学しました。どなたもその退学の原因を気にされると思います。私もどうしたのだろうとは思いましたが、それよりもその決意にたどり着くまでの苦しみを想像しました。ただ胸が痛む・・・それだけでした。

お母さまとの電話のやりとりから、約半年間悩んだことを聞きました。悩みの原因としては、ほとんどの方は人間関係だろうと思われるかもしれませんが、彼女は違っていました。

「学校へ行って、何か自分にプラスになるものがあれば私は通います。でも、学ぶものが発見できないのです。」というものでした。

当然様々なご意見をいただくことと思います。細部までお話を伺ったわけではないので、私自身も何とも申し上げようがないのですが、電話の最後にご本人から出た言葉が「今回のことで母を一番苦しめてしまいました。何年か先、母に喜んでもらえるようがんばります。」でした。私はそのことばを聞いたとき、理由が何であれ、半年間悩み苦しんだこと、この時期にまできて退学を決意するには、この時期だからこそ、いかに苦しんだかが想像できたこと。また、今、高校へ行かなくなり、そのまま自宅に引きこもったままではなく、アルバイトを日に9時間近くもしていることなどから、「〇〇ちゃんの思ったこと、それでいいのではないかな」という返事をいたしました。おそらくどなたも「もう少しなのだからがんばってみてはどうか」だと思います。また、お母さまも相当苦しまれたご様子で、今では徐々に娘さんのことを理解しつつあると申されていました。

この半年、母と子の間で繰り広げられたドラマを思うと・・・。

人生、一人ひとり様々です。たった一回の人生です。のほほ一んと一生を過ごすのも人生、この子のように自分を真正面から見つめ、悩みぬき、決まったレールの上を降り、違うレールを自ら探し出し生きていこうとする子もいます。

どうかご家族の皆様ともども、しあわせな日々を過ごされるよう祈るばかりです。

相田みつをさんの詩がひびいてきました。

子どもへ一首

どのような道を

どのように生きてもいいぞ

いのちいっぱい

生きればいざ

最後に、高校側の学年主任の先生が、お母さまに言われたことを記しておきます。

「私なら、あなたのように育てません」

ご本人はこの言を母から聞き、母の胸中を察するあまり、電話機の向こうで声を詰まらせながら涙していたことを添えさせていただきます。